

赤星

THE SEKISEI (RED STAR/ROTE STERN)

編集 共産主義者同盟 (DER BUND DER KOMMUNISTEN)

発行所 蜂起社 東京都江東区大島3-9-25/TEL 03-5626-8262
(関西支社)大阪市北区菅栄町10-10 岸本ビル/TEL 06-6357-6975
発行人 南 安明 <振替> 00120-2-1512 蜂起社・南安明

月刊

11月2001年 No.10 (通巻352号)

本号300円 (毎月1日発行)
年間購読料 1部3000円 (送料別)
(送料) 密封1000円 開封800円

紙面案内

- 1 自衛隊の派兵—参戦阻止
- 2 フランス訪問報告・II
- 3 10・14-11・3反戦闘争報告/狭山闘争/組対法
- 4 連載第6回「試論・ブントと新左翼運動を検証する」蔵田計成

自衛隊の派兵—参戦阻止!



11月3日、市ヶ谷の防衛庁に対して、10・14反戦闘争実行委は、自衛隊の派兵に反対する申し入れ行動に立ち上がった。

反帝・国際主義を鮮明に 安保粉砕・参戦阻止の反戦闘争へ!

日帝・小泉政権は、自衛隊が米軍を支援し参戦するための「テロ対策特別措置法」をはじめ自衛隊法と海上保安庁法改正の三法を10月29日可決・成立させ米帝・ブッシュ政権による対アフガン報復戦争への参戦に踏み出すとしている。今こそ労働者人民はこの日帝・自衛隊の派兵—参戦を断固阻止するために反帝・国際主義の旗幟を鮮明にして反戦闘争—革命的大衆行動に立ち上がる時だ。すでに有事立法—改憲阻止の闘いの前哨戦は始まっている。「後方支援」とい

う名の下で自衛隊が初めて参戦するという、戦後憲法によって阻まれてきた一線が踏み越えられようとしているのだ。このような決定的な局面にあつて、我々共産主義者が果たすべき歴史的役割も、かつてないほど重大である。今、なすべきことをなさなければ将来に禍根を残すことになる、ということとを肝に銘じ力を合わせ闘いを組織しよう。10・14実行委員会とともに反戦—反グローバリズムの大衆行動を反帝・国際主義の旗を高く掲げて創り出そう。

テロ対策特措法は米軍支援の参戦法 10月29日、小泉政権が可決・成立させた「テロ対策特別措置法」は、原案にあった「米軍支援」の文字を法案の名称からはずし、1文字の長々とした正式名称で厚化粧を施したり、「国際的なテロリズムの防止」という名分によって粉飾してはいるものの、米軍支援のための参戦立法であるという本質は変わりはない。まさに「ことさら法律の正式名称を長くし、支援における日本政府の主体性を強調するのは、派遣根拠のあいまいさを裏返しでもある」(「毎日」10月5日夕刊)と言える。その政治的狙いが、92年制定のPKO(国連平和維持活動)協定法や99年成立の周辺事態法の制約を—武器使用制限を緩和して武力行使を可能にしたこと、「極東有事」を想定した従来の日米安保の枠や「日本周辺」という地理的範囲を外して遠くインド洋にまで世界中どこでも派兵できるといふ二点で—突破し、自衛隊の海外派兵(他国の領土への侵略)と参戦を容易にするものであることと間違いない。

反米—国主義か 反帝国際主義か 10月7日からアフガンへの空爆を決定し「9・11米同時テロ事件」に対する「報復戦争」に打って出た米帝・ブッシュ政権は、今、重大なシレンマと罠に陥っている。第一には、「テロ事件」当初、愛国心一色に染めあげられていた世論に変化が見え始め、全国各地で拳闘一致ムードをほねのけ「悲しみを憎しみに変えてはならない」という声を挙げ「テロリスト」に成長したのも、イラクが「ならず者国家」になったのも、米帝

が軍事的・財政的に支援したからだ。昼は食料を、夜は爆弾を投下してアフガン民衆を殺りくしている米軍。この米軍を支援しながら難民を救援するという日本政府。「テロ根絶」を唱えながら、戦争と大失業によって労働者人民により一層の犠牲を強い搾取と抑圧をほしつづけている帝国内主義こそ打倒されるべきだ。「国連による制裁や軍事行動は警察行動」として容認することを表明している日共や9・11の無差別テロを反米シールドの「英雄的戦闘」と称賛する革マル派には、階級的国際主義的立場はみじんもない。求められているのは、反米—国主義ではなく反帝国際主義の反戦闘争である。

有事法制—改憲を許すな!

PKO協定法(92年)、周辺事態法(99年)と続いた海外派兵と参戦国化への危険な流れは、テロ対策特措法をもって参戦への階段へと進んだ。そして、このうした政治動向は、必然的に有事法制を具体化し、改憲を早期にたぐりよせるものである以上、我々に、早急な改憲阻止の戦いを要請するものもなつた。日帝の政治目的は有事法制—改憲である。9月11日の「同時多発テロ」から10月7日(日本時間8日)の米英軍によるアフガニスタンへの空爆開始という情勢の中で、日帝を容易にするものであることと間違いない。

小泉は、7項目の「対応措置」を公表、「米軍支援法」を姑息にも「テロ対策特措法」と言い換えて、わずか3週間ほどの国会審議(衆参両委員会での審議62時間)で、現行憲法解釈上認められていないとされて、改憲への向かう日帝の政治目的を「今は(憲法を)改正する考えはない」(小泉)と欺きながら。しかし、法案審議の過程で、首相小泉は「集団的自衛権を行使すると解釈するのなら、憲法を改めた方がいい」と言い放ち、「日本は米国の同盟国であり、非武装中立ではない」「(現行憲法の)前文と9条の間には、あいまいさがある」と等々と繰り返した。これは憲法前文での一原則のひとつ「平和主義(戦争放棄)」を「国際協調主義」の文言に置き換える改憲論者の常套手段の手法が用いられている。また自衛隊が自衛隊自身の基地や在日米軍施設を武器を持って警備することができるとした自衛隊法改訂「正」も「機密漏えい」への罰則強化を巧みに挿入させるなど、有事法制への先まき問われているのだ。(喜多有介)

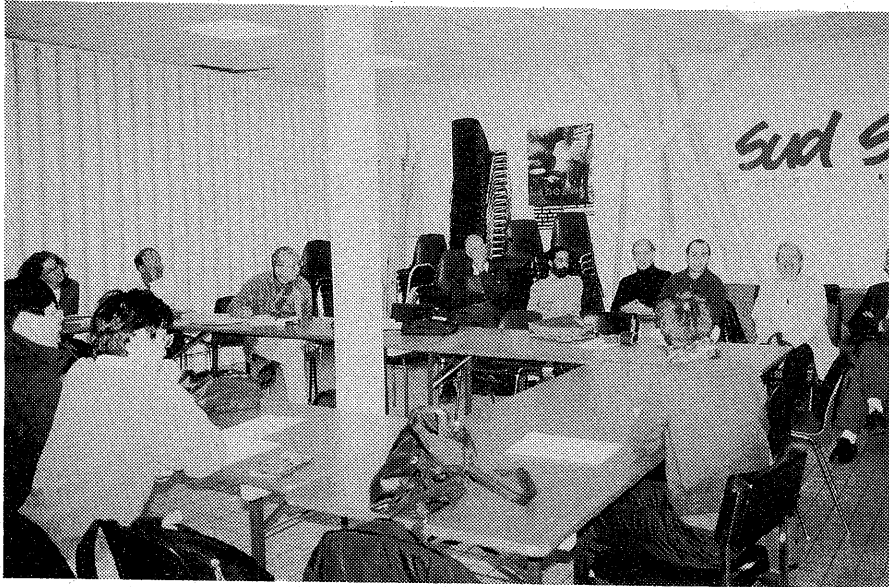
お知らせ 新年号は12月27日に発行します。(編集部)

『共産主義』18号
12月下旬発行

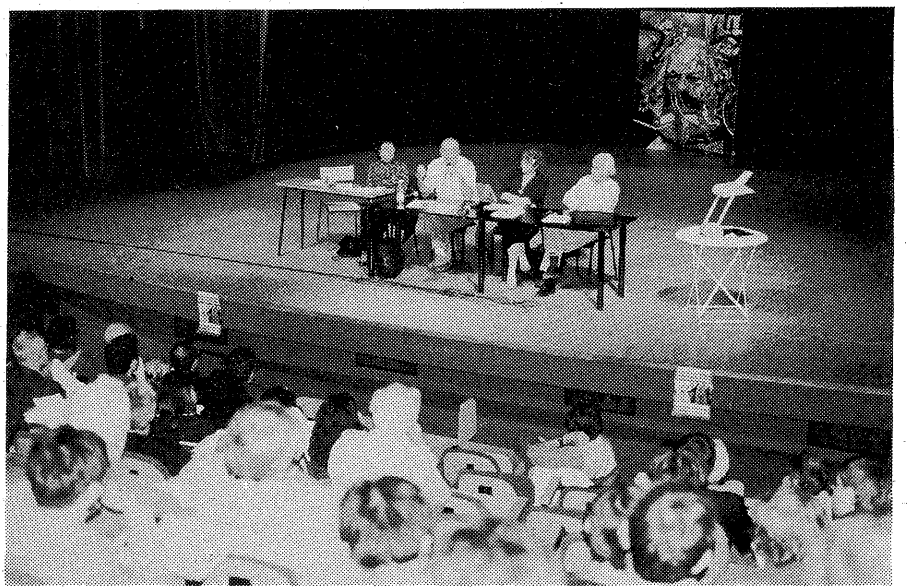
フランス 訪問報告

〈Ⅱ〉

グローバリズムに抗する国際的うねり 仏の社会運動・労働運動との交流



AC/ (反失業行動) のメンバーらとの交流会
(9月24日午前10時、パリのSUDの事務所で)



第3回マルクス国際会議の全体会議 (9月28日、ナンティールのパリ第10大
学) パネラーはサミール・アミン(右)、クリストフ・アギトン(右から3人目)

フランスの社会運動 との熱い交流と討論

反グローバリズムの新しい 国際主義と国際戦線を!

今回の訪仏には、ほぼ同時期に展開を開始した日仏反失業闘争の同盟性と連いごとにあるのかを探ることが課題としてあった。

92年釜ヶ崎反失業闘争を号砲として山谷の地でも、当事者性を引き出す共同炊事の試みから、城北福祉センター占拠と新宿への取り組みの着手に至る94年2-5月期の闘いがあり、フランスでは同時期、今回訪れたサンジェルマン・ディパシ近くのドラゴン通り7番地—現在はその所有者の不動産業者によって改修・管理されている—の占拠闘争があった。

「AC/」が全国的に認知され、各地に支部が広がってゆくにつれて、1994年12月のドラゴン通り7番地の「不法占

9月23日から約1週間、渡仏した私たちは、失業者やサンパピエ(滞在許可のない移民)との連帯、住宅占拠や反グローバリズムの闘いに取り組んでいる様々な社会運動団体、独立系系労組の活動家たち、そして実際に住宅占拠をしている人たちの数多くの交流や討論の場を持った。

そこで私たちは、一週間というほんのわずかな滞在期間ではあったが、グローバリゼーションの進行に伴う社会からのあらゆる排除に抵抗し、マイノリティーと連帯しながらディカルな社会変革にアプローチしている「フランスの新しい社会運動・労働運動」の息吹きにふれ、その実に豊かでパワフルな活動の一端を

今号では、現在、フランスを主張する者は、極左

今号では、現在、フランスを主張する者は、極左

今号では、現在、フランスを主張する者は、極左

ス国内に3万人の会員を擁し反グローバリズム運動の旗手となっているATTAC (アタック) のメンバーとの討論を紹介したい。

9月26日午前9時30分、私たちはクリストフ・アギトンの自宅を訪れ、ATTAC国際担当の同僚やピエール・ルッセ氏らと意見交換をした。その討論の概要は以下の通りである。

フランスでは、反グローバリズムは、社会運動・労働運動の中で当たり前の課題だと考えられているのだらうか?

ルッセ—フランスでは新自由主義政策に反対するのは重要な課題だと認識されている。それが、98年以降、反グローバリズム運動と結び付くようになった。それまでは、反グローバリズムを主張する者は、極左

98年にATTACが結成されたが、これまでになくタイプの運動体としてそのインパクトは非常に大きく、現在、3万人の会員が参加している。

戦争に反対する行動もかつて湾岸戦争に反対した時と比べると困難ではなくなっている。反グローバリズムと反戦は同じ課題だと考えられるようになった。

反グローバリズム運動は旧来のセクシブルな枠組みを乗り越えていかなければならない、というコンセンサスがあると聞かされた。

ルッセ—ATTACにCOG (労働総同盟) もSUD (連帯) も参加している。若い世代のラテ

ATTACは、拡大していきはくほどいろいろな問題を抱えるをえなくなっている。その一つに世代間の問題がある。若い世代のラテ

ATTACは、拡大していきはくほどいろいろな問題を抱えるをえなくなっている。その一つに世代間の問題がある。若い世代のラテ

越年
山越年闘争支援連帯集会
12月15日(土)午後6時
山谷労働者福祉会館

11-28
韓国民主労総を迎えて
日時/11月28日(水)午後6時30分
会場/山谷労働者福祉会館

11-17
渡仏報告会/フランス反失業闘争の現在
報告 荒木剛(山谷労働者福祉会館)
日時/11月17日(土)午後6時
会場/山谷労働者福祉会館

呼びかけ 日雇全協・山谷労働者福祉会館
失業闘争実行委/会館活動
委/支援共

反グローバリズムと国際連帯へ向けて

運動の拡がりや政府に取り込まれていくことには、重要な問題であり、またリスクを伴うものでもある。20年来活動してきたメンバーがATTACを維持し続けている。だが、この世代はやがて死に絶えていく世代だ。世代間の問題、どこに組織でも同様に、反グローバリズムのうねりには思想戦線にも影響を及ぼしていることがうかがえる。第3回マルクス国際会議(9月26日-29日)の呼びかけには次のように表現されている。「シアトルで、チアパスで、ブラジルで、韓国で、ヨーロッパで、進やストの中で、あらゆる大陸で湧き上がる下からの運動の中で、... 旧き世界を打ち倒そうという考えが至る所で、再び登場している」と。(赤井 隆樹)

のために当事者の起ちあがりを促してゆくメカニズムも同様だ。

ただ「ホームレスや失業など貧困をめぐる問題を、それぞれ個別な存在としてではなく『社会的排除』の

私たちがアピールを行うこと

の出来たAC/の全国集会は、年3回は各地からメンバーが集まり、各地それぞれが意見表明を行うという交流会に近いものである。そもそもAC/自体が共通のロゴ・マークを使用しながらも系統的な統一組織ではなく、各地独立の連合形態なのだ。

APEISやDALの日

管相談活動や、AC/の職

安に対する集合行動などに

参加して感じたのは我々の

日常生活と何の差異はない

ということだ。当事者の権

利を保障しつつ、運動拡大

米帝の報復戦争反対・自衛隊参戦阻止

10.14-11.3反戦闘争に連続決起

10月7日のアフガン空襲をもって米帝の報復戦争が開始され、10月29日の米軍支援立法(テロ対策特別措置法)と自衛隊法改正(正)の採決・成立をもって、自衛隊が派兵・参戦に踏み出すというまに許しがたい事態に、怒りと弾劾の声が出されてきている。

我々は、報復戦争反対、自衛隊の派兵・参戦阻止を掲げ、新たな共同闘争を連続行動として闘い抜いた。10月14日、東京・日本橋公会堂にて「米国の『報復戦争』を許すな/日本の参戦を阻止しよう」10・14集会・デモが勝ち取られた。この日の行動を準備した実行委員は、アジア共同行動日本連、安保・沖縄共同委員会、沖縄文化講座、労働運動活動者評議会の4団体で、会場には労働者・学生ら1000人が結集し、怒りと熱気がみなぎる中で集会が始まった。



米国の『報復戦争』を許すな! 日本の参戦を阻止しよう!
10・14集会

同闘争の意義を全体で確認し、フリス、台湾、韓国など海外からの連帯メッセージが読み上げられる。続いてメインスピーチとして来日した韓国の民衆運動のメンバーより、韓国における闘いの報告が行われ、米帝の報復戦争と参戦を表明した小泉政権に対する弾劾と、韓国と日本の民衆が固く連帯し、自衛隊派兵を許さず平和のためにともに進もうと力強い訴えがなされた。さらに、在日台湾人の林威徳さん、沖縄・坪反戦地主会関係者アロックスのメンバーより、連帯のアピール。実行委各団体よりの決意表明に移る。安保・沖縄共同委員会からは、本日の共同闘争を有事立法・改憲と対決する闘いのステップとし、併せて反グローバリズムの世界的な闘いと結ぶ新

しい国際戦線とともに闘いだしてゆこうと訴えた。続いて、青年・学生戦線として仲間からの決意表明も受けて、全体でシュプレヒコールを行い、銀座までのデモを元氣よく貫徹した。当日は引き続き渋谷の宮下公園で行われた『報復戦争と日本の戦争協力を許さない』集会(1000人)に合流、渋谷の繁華街をデモ。この日の行動には、山谷からも労働者の結集を勝ち取ったことをつけ加えておきたい。さらに前日の13日には、南部労政会館で『報復戦争と日本の戦争協力を許さない』講演、討論のタペが2000人余の結集で開かれ、韓国、沖縄からの代表が運動の報告と講演を行った。一方、国会はまともな審議もせずに、自公保の数の力で法案の採

決を強行。連日わたってデモが取り組まれる中で、衆院本会議成立の18日には、国会前では約2000人が『人間の鎖』で抗議の意志を示した。この時期、各地域の闘いも積極的に取り組まれていく。10月11日には、墨田区

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

国際的組織犯罪条約許すな 10・27講演集会を勝ち取る

10月27日、「国際的組織犯罪条約批准阻止・先取り攻撃を許さない」民衆のたたかう団結を守れ! 10・27集会」が、東京・高円寺会館で1000人の結集をもって勝ち取られた。主催は、破防法・租対法に反対する共同行動。国際的組織犯罪条約の問題点は、今年の4・21集会で指摘されているが(5月号参照)、9月以降の「反テロ国際包圍網」とアメリカで先駆けて進行している治安法の再編のなかで、より重大な位置を占めることになるのは明らかだ。集会

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

冬期カンパを訴える

『赤星』読者の皆さん、同志・友人諸君! 米帝のアフガン報復戦争に参戦を自論の日帝・小泉政権は、米軍支援法を強行成立させ戦場に自衛隊を派兵せんとしています。われわれは党建設(フント再建)と大衆運動を両輪とした闘いに断固として勝利し、参戦体制を打ち砕く決意です。共産主義の再生をめざし奮闘する、わが蜂起派に圧倒的な冬期カンパの集中を!

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

11・17シンポ

占領下、沖縄・奄美の
非合法抵抗運動について

講師/加藤哲郎
報告/金沢幸雄、國場幸太郎、森宣雄
鳥山淳、大峰林一、松田清
時・11月17日(土)10時~17時
所・専修大学(神田神保町)
主催・11・17実行委

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

の錦糸公園で東部地域の労働者・市民の集会・デモが4000人の結集で勝ち取られ、13日には、荒川地域で緊急のデモが呼びかけられた。それぞれに山谷からも参加した。また、関西では21日、大阪城野外音楽堂で2000人を超える広範な

なり、錯綜した党派配置の下で六〇年代階級闘争を競い合った。新左翼諸党派は潮が引くような退行期のなかにあっても、次々と仕掛けられてくる政治課題に立ちむかっていたが、こゝに安後世代はその後数年間にわたって、困難な闘争を強いられる。闘争の中では様々な矛盾や対立が生じた。政治党派同士や党派の組織内部を問わず、政治路線、方針、戦略、戦術、主導権をめぐる対立はあらゆる領域に及んだ。相互矛盾と対立は闘争のダイナミクスを急進化に比例して先鋭化していった。階級闘争が先鋭化するほどそれに比例して党派間の緊張関係は高まる。そのために党派闘争は対権力との闘争の質、闘争への求心性、根源性すなわちディカリティと、党派の理論と思想性に深く規定されていた。主要には運動・組織論の同質性と異質性に根ざし、対心した論を対置すると共に、自らは「革共同主義」に固執し純化させていった。その結果、この両派は「革共同主義」をめぐるイデオロギイ対立を激化させ、やがて死闘を演じることになった。このような両派の分裂によって、革共同系は第四インター派を加えて三―四党派となった。その他六〇年に結成された社青同や、日共から分離した構改派を加えると、新左翼諸党派は全体で四流派が出そろったことになり、後に中国派を加えること五流派になる。新左翼諸党派はこのような群雄割拠する戦国時代を迎えることになる。

稿 試論「ブント」と新左翼運動を検証する

最終回 60年安保闘争とブント主義の捉え返し

蔵田計成

第七章 総括論争と問題点

七月下旬、激闘の余韻がめやらぬなか、共産同第五回大会が栃木県下の寺の境内で開催された。六・一五闘争から四十五日後であった。この大会において、同盟員は中央政治局崩壊という衝撃の事実を初めて知らされた。「組織における解堂主義の状況は、中央から細胞に至るまで、同盟創立以来もともな危険状態」ともなぐ、また、十分な理論的正性と根拠を獲得し得ないままに出現した。そのため本来には到底説得力や波及力を持ち得ないはずの「大学細胞意見書」が一人歩きし、極めて唐突に革運派が分派として登場する羽目になった。以後の連鎖反動的に形成された不毛な分派闘争への直接的な引き金になってしまったのである。青天の霹靂というに等しかった。これが後に「革運派」と「ブント派」の生運動史上類をみないような相対的な分派闘争と評される所以でもある。

その限りにあつたのは、その後も繰り返される戦術論を演繹する手法は、その度に議論的になつていった。革運派結成に即時的に反対したのが学連書記局グループであった。革運派結成を策動した一人を除いて他の書記局長は全員が、やむを得ず革運派に反対して「プロレタリア通信派」を急遽結成し、「たらいの水」と共に赤ん坊を流してしまふ」と主張した。しかし、首都圏の学生同盟員は多くは過去の遺産に対する興味よりも、「よの左翼の方針を提起してくれそうである」という実践的理由だけで革運派を選んだ。

このように学生同盟員を中心に二極化した総括論争とは別に、戦旗、対立職、労働者グループは東大意見書に対して全面的な批判を展開した。その立場には二つの傾向があつた。「ブント主義」の下で学生運動の高揚に依拠しながら労働活動を推進し、その延長線上で同盟再建を模索しようとする「原則的立場」と、同盟の理論と思想を全面的に否定することによって革共同への合流を目指す「清算主義的立場」である。

とくに後者の立場は「大衆運動の左翼化に絡めてがけられ、左翼的戦術における一致を革命性と同視して、同盟が組織されていく……問題は安保闘争と思想そのものの中にある」と主張した。これは革共同の主張そのものであつた。総括して両者に共通して言えることは、ブント全連連の闘争が「小ブル急進主義」であり、学連中心主義に傾倒し、党建設の問題を対立活動に矮小化し、街頭闘争が重要であるという理由で労働者を街頭にかり出して学生モノの後に「つた」ことについての同盟中央政治局に対する不満を顕在化させたものであつた。

批判の対象となつた同盟政治局の街頭闘争に対する基本認識と戦略論は第五回大会の議案書の次の引用にも示されている。

「闘争の性格を安保改訂の粉砕から、現社会体制の暴力的転覆まで展望し、地味な日常活動だけが明目を約束する。このことを誰よりも痛感させられてきたのが他でもない対立自身であった。だから、この難題に關して一定の総括が提起できる分派が登場しないといふれば、その結果は明確であつた。革共同へ吸収されていく内の必然性もここにあつた。

三つ巴の展開となつた。このように第一次ブントの分派闘争は、当初から成算のない展開を見た。いづれもなくその原因は、先にみた革運派の唐突な形成過程にある。これがブントの死命を制する大きな要因でもあつたと言えよう。

たとえば、学生細胞内部においては、四月段階ですら東大本部細胞が独自の資本主義論の研究を開始していた。また、東大本部自治会は早大自治会と並んで学連オルグの対象外であり、独立主権保持をして活動していた。さらに、闘争の後半段階では学連二都学連書記局メンバーの七割が本郷自治会出身者で占められていたが相互の人もも、東大細胞は「金助町」学連無視していた」という関係もある。

しかし、それがそのまま方針上のズレや対立を意味するものでは決してなかつた。例えは四・二七闘争をめぐる方針上の対立にしても、大学自治会内の日共系反主流派との対立に拮抗関係を巡る認識と判断上の相違というよりも、両者が置かれていた立場の違いに過ぎなかつた。また、「総括」情勢分析と任務と方針」の三点セットのどの理論内容においても基本的相違点は皆無であつた。

したがって、総括論争は本来ならば同盟の大会で提起され、内部討論の過程を通じて問題点が抉出され、その必然的結果として分派結成というオーソドックスで有益な分派闘争が展開される条件は十分に存在していた。にも拘らず、実際の総括論争の展開過程は全く逆であつた。当時者や同盟員全体が直接論争し合う場は一度もなく、総括論争は深化と発展への道を自ら閉ざしたまま自壊への道を急いだ。こうして第一次ブントは七月の第五回大会とその直後の全国学生細胞代表者会議をさいごに、五名の再建準備委員の出番もなすまま分裂、自壊、混迷への道を疾駆することとなつた。やがて、新左翼諸党派全体では五流十八派といわれるまでに細分化し、ブントは細分化の主要な演者になつた。

既述したように、「ブント主義」とそれを体現する運動組織の背景をなす「倍々ゲーム路線」は、革命的側面と非革命的側面の正反二面性を持つていた。前者の革命的側面については、ブント主義は六〇年安保闘争の全過程に方針上のズレや対立を意味するものでは決してなかつた。例えは四・二七闘争をめぐる方針上の対立にしても、大学自治会内の日共系反主流派との対立に拮抗関係を巡る認識と判断上の相違というよりも、両者が置かれていた立場の違いに過ぎなかつた。また、「総括」情勢分析と任務と方針」の三点セットのどの理論内容においても基本的相違点は皆無であつた。

したがって、総括論争は本来ならば同盟の大会で提起され、内部討論の過程を通じて問題点が抉出され、その必然の結果として分派結成というオーソドックスで有益な分派闘争が展開される条件は十分に存在していた。にも拘らず、実際の総括論争の展開過程は全く逆であつた。当時者や同盟員全体が直接論争し合う場は一度もなく、総括論争は深化と発展への道を自ら閉ざしたまま自壊への道を急いだ。こうして第一次ブントは七月の第五回大会とその直後の全国学生細胞代表者会議をさいごに、五名の再建準備委員の出番もなすまま分裂、自壊、混迷への道を疾駆することとなつた。やがて、新左翼諸党派全体では五流十八派といわれるまでに細分化し、ブントは細分化の主要な演者になつた。

第八章 挫折と再編

六〇年代初期の階級闘争は、岸内閣の後継いだ池田内閣が推進した「所得倍増」高度経済成長策」の下での階級攻防戦として展開された。新左翼諸党派の再編は、六〇年安保闘争から六〇年代階級闘争という新しい時代局面へと推移する中で、様々な激闘を繰り出しながら展開された。しかし、ブント崩壊以後の再編における学生運動の主導権を握つたのは革運派学連同盟であった。革運派は岸内閣に代わって登場したエース池田内閣打倒ゼネストを提起するとともに、都学連の再建を試みた。しかし、大会召集権を持つ執行委員数では、獄中メンバーを含めて革運派とブント派は全く同数であつた。そこで明大ブントは「委員長と書記長を両派に分け合う」という妥協案を示したがブント派が拒否した。大会演壇上で両派がつかみ合いを演じるという一幕もあり、流会となつた。この日を最後にブツダム自治会型都学連は消滅した。

秋の学生運動は革運派主導の下で展開された。革運派は「星野帝國主義論」により政策推進者としての「池田内閣打倒全国ゼネスト」を打ち出した。しかし、このゼネスト方針は安

介的に継承されていくことになつた。痛苦なブント史の源流もここにあり。

その結果、革運派学連同盟は、たんに反革共同、反マール学同の一点を党派性にして、それを結果軸にする他になつた。ブント派も運動の組織的基盤が弱く、革運派に代わって遺産相続人になることはできなかった。

多くの活動家は語るべき言葉を失つた。深い挫折感に覆られた。ブントの崩壊が革命的挫折であり、己の挫折であることを思い知るばかりであつた。多くの優れた学生や青年労働者が戦線を離脱していった。

また、革命運動への信念と決意を持った活動家にとって、組織と活動の中断はどつちもいものなかつた。中断は己の政治的死を意味するに等しかった。とりわけ、中間派であるブント派活動家にとって、生きる道、進む道、活動継続への道は、即革共同への「奴隷的屈服」への道を意味した。戦線離脱よりも別な意味で重い決断を要した。そして、幾人もの優れた活動家は敢えて不本意な道を選択した。その感情的屈辱感を和らげてくれるものがあつたといふれば、それは革共同活動家心の隅に内在させているかも知れない。対ブントへの「政治的負目」という同じ感情レベル

「倍々ゲーム路線」を際限なく推し進めることは不可能であるという確かな事実であつた。すなわち、階級闘争は軒余曲折を経て前進する。それは「闘争」失敗一再び闘争一再び失敗一再び闘争……そして最後の勝利への長い道程に他ならない。支配階級の権力が現存する限り、人民は一時的に政治的、社会的、軍事的に勝利を収めることができなかつても、それは部分的な勝利に過ぎない。しかし、その勝利に至るまでには無数の敗北を強いられるし、後退を受容せざるを得ないのである。

だから結論的にいえば、第一次ブントの当否とすべき総括の基軸は、第一に、ブント主義が内包する二面性を、成果と役割、限界性との問題点として抉出するべきであつた。第二に、これを前提にして六〇年安保闘争の全過程を、政治的、組織的、思想的に捉え返し、革命主体の形成、党建設、綱領闘争へと収斂させ、結果させることをもって、同盟再建の任務とすべきであつた。ところが、ブントは自ら党的飛躍への道を絶ち、明日への出路を見いだすことができずに自壊した。その結果、死せるトは二つの遺産を残した。第一は「歴史の栄光」第二は幻影のベールに包まれた「ブント主義」であつた。

別稿でみるが、この二つの遺産はあくまでも異なるカテゴリーとして峻別されるべきであつたにもかかわらず、厳密に総括されないまま、いつしか「栄光」

「倍々ゲーム路線」を際限なく推し進めることは不可能であるという確かな事実であつた。すなわち、階級闘争は軒余曲折を経て前進する。それは「闘争」失敗一再び闘争一再び失敗一再び闘争……そして最後の勝利への長い道程に他ならない。支配階級の権力が現存する限り、人民は一時的に政治的、社会的、軍事的に勝利を収めることができなかつても、それは部分的な勝利に過ぎない。しかし、その勝利に至るまでには無数の敗北を強いられるし、後退を受容せざるを得ないのである。

だから結論的にいえば、第一次ブントの当否とすべき総括の基軸は、第一に、ブント主義が内包する二面性を、成果と役割、限界性との問題点として抉出するべきであつた。第二に、これを前提にして六〇年安保闘争の全過程を、政治的、組織的、思想的に捉え返し、革命主体の形成、党建設、綱領闘争へと収斂させ、結果させることをもって、同盟再建の任務とすべきであつた。ところが、ブントは自ら党的飛躍への道を絶ち、明日への出路を見いだすことができずに自壊した。その結果、死せるトは二つの遺産を残した。第一は「歴史の栄光」第二は幻影のベールに包まれた「ブント主義」であつた。

別稿でみるが、この二つの遺産はあくまでも異なるカテゴリーとして峻別されるべきであつたにもかかわらず、厳密に総括されないまま、いつしか「栄光」

「倍々ゲーム路線」を際限なく推し進めることは不可能であるという確かな事実であつた。すなわち、階級闘争は軒余曲折を経て前進する。それは「闘争」失敗一再び闘争一再び失敗一再び闘争……そして最後の勝利への長い道程に他ならない。支配階級の権力が現存する限り、人民は一時的に政治的、社会的、軍事的に勝利を収めることができなかつても、それは部分的な勝利に過ぎない。しかし、その勝利に至るまでには無数の敗北を強いられるし、後退を受容せざるを得ないのである。

だから結論的にいえば、第一次ブントの当否とすべき総括の基軸は、第一に、ブント主義が内包する二面性を、成果と役割、限界性との問題点として抉出するべきであつた。第二に、これを前提にして六〇年安保闘争の全過程を、政治的、組織的、思想的に捉え返し、革命主体の形成、党建設、綱領闘争へと収斂させ、結果させることをもって、同盟再建の任務とすべきであつた。ところが、ブントは自ら党的飛躍への道を絶ち、明日への出路を見いだすことができずに自壊した。その結果、死せるトは二つの遺産を残した。第一は「歴史の栄光」第二は幻影のベールに包まれた「ブント主義」であつた。

別稿でみるが、この二つの遺産はあくまでも異なるカテゴリーとして峻別されるべきであつたにもかかわらず、厳密に総括されないまま、いつしか「栄光」

「倍々ゲーム路線」を際限なく推し進めることは不可能であるという確かな事実であつた。すなわち、階級闘争は軒余曲折を経て前進する。それは「闘争」失敗一再び闘争一再び失敗一再び闘争……そして最後の勝利への長い道程に他ならない。支配階級の権力が現存する限り、人民は一時的に政治的、社会的、軍事的に勝利を収めることができなかつても、それは部分的な勝利に過ぎない。しかし、その勝利に至るまでには無数の敗北を強いられるし、後退を受容せざるを得ないのである。

だから結論的にいえば、第一次ブントの当否とすべき総括の基軸は、第一に、ブント主義が内包する二面性を、成果と役割、限界性との問題点として抉出するべきであつた。第二に、これを前提にして六〇年安保闘争の全過程を、政治的、組織的、思想的に捉え返し、革命主体の形成、党建設、綱領闘争へと収斂させ、結果させることをもって、同盟再建の任務とすべきであつた。ところが、ブントは自ら党的飛躍への道を絶ち、明日への出路を見いだすことができずに自壊した。その結果、死せるトは二つの遺産を残した。第一は「歴史の栄光」第二は幻影のベールに包まれた「ブント主義」であつた。

別稿でみるが、この二つの遺産はあくまでも異なるカテゴリーとして峻別されるべきであつたにもかかわらず、厳密に総括されないまま、いつしか「栄光」

「倍々ゲーム路線」を際限なく推し進めることは不可能であるという確かな事実であつた。すなわち、階級闘争は軒余曲折を経て前進する。それは「闘争」失敗一再び闘争一再び失敗一再び闘争……そして最後の勝利への長い道程に他ならない。支配階級の権力が現存する限り、人民は一時的に政治的、社会的、軍事的に勝利を収めることができなかつても、それは部分的な勝利に過ぎない。しかし、その勝利に至るまでには無数の敗北を強いられるし、後退を受容せざるを得ないのである。

だから結論的にいえば、第一次ブントの当否とすべき総括の基軸は、第一に、ブント主義が内包する二面性を、成果と役割、限界性との問題点として抉出するべきであつた。第二に、これを前提にして六〇年安保闘争の全過程を、政治的、組織的、思想的に捉え返し、革命主体の形成、党建設、綱領闘争へと収斂させ、結果させることをもって、同盟再建の任務とすべきであつた。ところが、ブントは自ら党的飛躍への道を絶ち、明日への出路を見いだすことができずに自壊した。その結果、死せるトは二つの遺産を残した。第一は「歴史の栄光」第二は幻影のベールに包まれた「ブント主義」であつた。

別稿でみるが、この二つの遺産はあくまでも異なるカテゴリーとして峻別されるべきであつたにもかかわらず、厳密に総括されないまま、いつしか「栄光」

「倍々ゲーム路線」を際限なく推し進めることは不可能であるという確かな事実であつた。すなわち、階級闘争は軒余曲折を経て前進する。それは「闘争」失敗一再び闘争一再び失敗一再び闘争……そして最後の勝利への長い道程に他ならない。支配階級の権力が現存する限り、人民は一時的に政治的、社会的、軍事的に勝利を収めることができなかつても、それは部分的な勝利に過ぎない。しかし、その勝利に至るまでには無数の敗北を強いられるし、後退を受容せざるを得ないのである。

だから結論的にいえば、第一次ブントの当否とすべき総括の基軸は、第一に、ブント主義が内包する二面性を、成果と役割、限界性との問題点として抉出するべきであつた。第二に、これを前提にして六〇年安保闘争の全過程を、政治的、組織的、思想的に捉え返し、革命主体の形成、党建設、綱領闘争へと収斂させ、結果させることをもって、同盟再建の任務とすべきであつた。ところが、ブントは自ら党的飛躍への道を絶ち、明日への出路を見いだすことができずに自壊した。その結果、死せるトは二つの遺産を残した。第一は「歴史の栄光」第二は幻影のベールに包まれた「ブント主義」であつた。

別稿でみるが、この二つの遺産はあくまでも異なるカテゴリーとして峻別されるべきであつたにもかかわらず、厳密に総括されないまま、いつしか「栄光」